

ベルギーの首都ブリュッセルにも何度か出張する機会がありました。デクシア銀行は、リテール・バンキングとしての伝統を有し、ベルギーの人々からも信頼されるとともに、国際金融市場においても存在感を示しており、そこでの勤務は私にとっては大変貴重な経験でした。

大使から見て、最近の欧州の経済全般における情勢や世界経済の情勢については、どのように思われますか。

大使 私が確信を持って感じることは、まず、アメリカの景気が回復し、日本も回復基調にあるということです。われわれ欧州にしても昨年度、景気は底を打ったと思います。IMFなどの経済予測ではベルギーを含めた欧州北部地域では約1.5%、ドイツでは約2%の経済成長が見込まれ、欧州南部地域でも昨年よりは上昇すると見込まれています。

このような明るい経済情勢をより確かなものにするためには、内政を安定させてそれを持続させることが必要です。自由貿易協定(FTA)の交渉といった積極的な施策を取り、新たな市場へ向けた可能性の扉を開かねばなりません。



今世紀はグローバル経済の時代ですから、世界中の全ての人々が共に動き、単に自国の発展のためだけでなく、時には経済的パートナーの発展に依存する面もあるかと思っています。

市長 そうした世界経済の展開を支えるのが地域経済です。私は地方自治体の首長として、津市への企業誘致をさらに進め、地方雇用の創出を目指します。

大使 市長の考えや姿勢とベルギー国内の自治体の立場はまさに同じです。日本とベルギーの関係はこれまでも大変友好的なものであり、ベルギーには日本からの投資も多く、その第1号は1960年代初頭のホンダに始まります。その後もたくさんの日本企業が後に続き、これまでに300もの投資が行われています。

われわれのような政府や首長として重要なことは、自国の人々の雇用を創出し、経済を活性化し、暮らしを豊かにすることだと考えています。

市長 今後も相互の連携によって、新たな投資、そして経済交流が生まれることを願っています。

大使 三重県、そして津市が企業誘致に大変熱心で、外資からの投資を受け入れる姿勢がオープンであることに感謝します。欧州のビジネス界にも、このようなメッセージが伝わることでしょう。

市長 津市に進出いただく企業に対し、おもてなしができるよう努力することをお約束します。今日はお話ができうれしく思います。

大使 こちらこそありがとうございました。前葉市長を大使公邸でおもてなしできたことをうれしく思います。

